

音楽科

1 単元前の子どもの姿

わたしは、この1年間に、いろいろな人と出会い、いろいろなことにたちむかいました。そしてクラスにはすこし自分勝手な子やいろいろな人がいました。わたしは、その子のおかげでここまでこれたと思いました。いろいろなことにたちむかうとは、やれないと思うことをやってみたりということです。－〈略〉－4月からは、3つのやく目があります。一つ目は新館のリーダーとなり1～3年生のみんなにやさしくしていかなければなりません。二つ目は、ペアのお兄さんやお姉さんがわになることです。三つ目は、きちんとこうがくねんになれるようにすることです。4年生がおわると、こんどは5年生でこうがくねんになかまいます。なので、こうがくねんになるじゅんびをして、きちんとがんばっていきたいです。－〈略〉－ (3月15日 佳代の生活日記)

新学年になり提出された生活日記に目がとまった。佳代自身「なければなりません」「お兄さんやお姉さんがわ」「こうがくねん」「きちんと」ということばに現れるように、正しいことを正しく行うことや、お手本となる行動を周りに示していくことに価値を感じている。元気がよいものの落ち着きに欠ける部分もあった昨年度の学級では、正しくない行動に対して許すことができず、仲間と対立してしまうこともあった。その都度、担任が励ましたり、当事者同士で話し合ったりしてきた。しかし、「その子のおかげ」と、相手とうまくいかなかった経験も、前向きにとらえ、泣き寝入りせずに「たちむかう」と、意見をぶつけられるようになり、自分を成長させてくれたと綴っている。

今日は、朝、先生たちとふ小生たちがつうろのそうじをしていました。かとう校長先生も見えました。わたしは、そうじをしている先生たちや、ふ小生を見ていると、すごいことをしていると思いました。なぜなら、見ていると、すごい、ふぞく小をきれいにしたいという気持ちがこめられていて、とっても心にぐっときました。わたしも、ふぞく小のやくにたつことをいっぱいやって、ふぞく小をよりよい学校にしていきたいです。 (4月18日 佳代の生活日記)

運動場が駐車場として使用された翌日、通路に残ってしまった泥を掃除する子どもたちの姿があった。佳代はその姿が「心にぐっと」と強く印象にのこったと綴っている。これは、先に挙げた、お手本となる行動を周りに示していくことに価値を感じるからこそ、泥を掃除する姿に佳代が強く共感したと考えられる。そして、「わたしも」と言う記述からは、自ら附属小のために何かをしていきたいという思いを強くしていることが読み取れた。

佳代は周りのためにお手本となる行動をとったり、学校のために行動することに対して価値を感じている。また、価値観の異なる仲間に対して、自分の考えたことを正直に伝えていくことで、傷つき合いながらも自己が成長していくとも感じている。これらの佳代の意識に伸びゆく芽を感じ取った。

高めたい佳代の非認知的能力

- ・意見をぶつけるだけでなく、受け入れたり折衷したりすることで、新たな考えが浮かんだり、一人ではできないことができるようになったりするという仲間のよさを感じる。

2 1 学期実践

4 年音楽科単元

「リズムを合わせて ひびかせて 楽しませるよ リズムアンサンブル」

(1) 教科の学び

- ・身近な物で出す音をグループで重ね合いながら一つの楽曲をつくりあげていくことで楽曲の構成や強弱、テンポを考えて楽曲を練りあげられるとともに、様々な音色に対する感性を豊かにすることができる。

(2) 実践の実際

楽曲に合わせてリズムを打ったり、身近な物で音を出したりした子どもたち。『手拍子の花束』に出会った佳代は、いろいろな音を奏で、自分も聴く人も楽しめるリズムアンサンブルにしていきたいという思いをもった。そして、仲間と協力しながら、グループでバランスのよい音を探そうと楽器選びや演奏表現の追求に向かっていった。

追求の際には演奏をタブレットで記録し、映像と録音で振り返ることができるようにした。振り返り際には、演奏が何点なのかを考え、足りなさやできるようになったことがはっきりするようにした。問いを生む段階で「バラバラ」と考えていた佳代は、グループ内の音色や強弱のバランスについて注意深く聴き取りながら追求を進めていった。

点数は66点。理由はわたしと高志くんのパターンがかわっていないので66点にしました。あと、高志くんの音が大きくて、とても他のみんなの音が目立たないので、高志くんのたたいているやつをかえたほうがいいと思います。次は、フライパンと、白いギザギザのやつ（洗濯板）、糸のマレットと、キッチンボウル。なぜこの5つを使いたいかというと、音が大きいし、高志くんの音に勝てると思うからです。
(6月10日 佳代の学習記録)

佳代は、いろいろな音色が聴こえてくる演奏が、聴き手も楽しめる演奏だと考えていた。6月10日の演奏ではグループの「みんなの音が目立たない」と佳代は全員の音が聴こえる演奏によさを感じているため、高志の音が大きくバランスが悪いと振り返っている。その解決策として、「かえたほうが」と仲間に対して不満を抱くと同時に「勝てる」と、自分が対抗することで解決を図ろうとしている。これは、対立する意見をぶつけ合うことで成長につながると考えていた3年生を振り返る生活日記にあった意識によるものであると考える。

今日の点数は33点だと思いました。なぜなら、音のバランスがとっても悪くて音も全然でなかったから33点にしました。これからはせんたくいたをこすって大きな音をだして、もりあげていったらいいと思います。
(6月11日 佳代の学習記録)

みんなだんだん大きな音になってきてとってもよくなったと思います。録音して思ったことは、だいがみんな上手になったと思います。次は高志くんと合わせてさらによい演奏にしたいです。
(6月13日 佳代の学習記録)

この後高志は欠席が続いてしまった。しかし、6月11日は高志がいないことによって、

「音も全然でなかった」と、高志以外のメンバーのバランスの悪さとともに、全体の音量の足りなさに気づいていく姿が見られた。6月13日の「みんな」という書き出しからは、仲間と協力して課題に向かおうとする意識がうかがえる。このとき、佳代が仲間へ指示をする形ではなく、協同しようとしたきっかけはどこにあるのかは読み取ることができない。しかし、協力した結果、全体の音量のバランスが改善され満足感を感じている。また「高志くんと合わせて」と、考えの異なる仲間を受け入れようとする姿が見られた。バランスが整ってきたという自信が、仲間を受け入れられるという自信にもつながっていったのではないかと考える。

今日の点数は50点です。なぜなら、今日は新しい楽器になってはじめて高志くんと合わせたからです。しかも、音色がそろっていなかったから。
(6月17日 佳代の学習記録)

グループ全員そろって演奏をした。しかし、久しぶりに来た高志とうまく合わなかったのだろう。点数は50点であった。「しかも」という記述からは、強弱バランスが解決していないとともに、音色が合わないという新たな問題にも目を向けている。高志が欠席の間、音量のバランスを整えてきたからこそ、音色の組み合わせという別の視点からも自分たちの音楽を見つめていくことができるようになってきている。この後、グループ全体の強弱や音色のバランスにこだわって追求を進めていった佳代は、バランスや音色がそろってくると鮮やかなイメージ、カラフルなイメージと自分たちの奏でる音とイメージを結びつけながらよりよい表現を求めて追求に向かっていた。また、グループでの表現が高まってくると、グループだからこそできる表現にも着目していった。



バランスに気をつけるよ

佳代 52 香奈ちゃんたちのグループと一緒にんだけど、わたしは最後がいいと思いました。最後に、高志くん、わたし、由衣ちゃん、遥菜ちゃん、勇也くんが順番にやっていくんだけど、そのなかでもひとりひとり違う音でやっているから、階段みたいににどんどん上がって行って、最終的に勇也くんが階段の上からジャンプするようにボールを鳴らすから、おもしろい。
(7月4日 核心に迫るかかわり合い 授業記録)

核心に迫るかかわり合いでは、佳代52「ひとりひとり違う音でやっているから」と、自分たちの演奏の特徴をとらえ、「階段みたいに」「ジャンプするように」と、演奏の音を具体的なイメージと関連づけながら自分たちの演奏のよさを感じる姿が見られた。また、「順番に」と、メンバー全員の名前を挙げながら発言する姿は、一人ではできない表現も、みんなで協同するからできるというよさを感じている意識の表れであると考えられる。6月10日には、自分の音を変えていこうと解決策を図っていた佳代が、このように仲間と協力するからこそできる表現によさを感じるという変容を見せた。これに影響したのは、グループでの話し合い、表現の高まり、リハーサルによる評価と起因するものが多く考えられる。佳代はグループだからこそできる音楽的表現によさを感じている。こ

これは、仲間とともに何かをつくり上げることのよさを感じている姿であると考える。

このように、仲間と一緒に聴き手も楽しめる演奏をしたいという思いをもとに追求してきた佳代は、全校への演奏会を終えた後、振り返り作文に以下のように綴った。

－く略－ わたしと同じグループのたかしくんやゆうやくん、ゆいさんやはるなさんといろいろとかんがえてきました。その中でもいちばんかんがえたときは、たかしくんがやすんでいたときにわたしたち3人はがっきをかえていました。そして、たかしくんのあたらしいがっきをきめるのに、「これいいんじゃない」や「これはやめたほうが」と、いろいろとけんかになったときもありました。けれど、たかしくんもがっきになれてきていて、さいしゅうてきになんどもなやんでここまできたと、わたしはおもいます。そして、いろいろかんがえる力もつきました。それは、「こんながっきだったらどんな音がでるかな」や、いろいろがっきぎめにくろうしました。なぜ、がっきぎめがたいへんだったかという、バケツや、たわしや、せんたくいたなど、いろいろながっきによって音がちがったからです。そのなかでわたしは、なやみになやんでバケツにたどりつきました。バケツはさっきもいったようにたかすぎずひくすぎずなので、ちょうどいい音だったからです。このバケツと木のはこの音のバランスや、音色がとってもいい音になっていて、すごいべんきょうになったしよかったなと思いました。－く略－

力のつよさによって、音が変わるということです。それは、よわくたたくと音が小さくなるし、強くたたきすぎると、大きすぎるから、ちょうどいい音がすごくむずかしかったです。けれど、同じグループのたかしくんや、ゆうやくんや、ゆいさんや、はるなさんと、きょうりょくして、「もうちょっとよわく」や「もうちょっとつよく」やいろいろなくふうをしました。さいしゅうてきにえんそうかいではきして、すんごくいいえんそうをやることができました。そのことがいちばん思いでにのこっています。－く略－

(7月12日 佳代の振り返り作文)

振り返り作文に綴られた「なやみになやんで」という記述からは、多様な楽器の音の高さや音色の違いや、演奏の強弱に耳を傾け、自分の納得する音や自分たちのグループの演奏に合う楽器を探そうとしてきたという追求に対する努力がうかがえる。また、自分の選んだ楽器のよさについて「バランスや、音色がとっていい音」と綴っている。この部分には全員の音が聴こえるように、様々な音を試し、音色の違いや音のバランスを聴き取り「ちょうどいい音」を見つけられるようになったという佳代の学びが表れている。追求に難しさを覚えることもあった。

佳代の振り返り作文にはグループの仲間の名前が複数回出てくることから、佳代はグループの仲間との追求を大切にしてきたという意識を読み取ることができる。はじめからうまくいったわけではなかったが、「けれど」ということばからは、仲間がいたからこそ工夫を凝らして演奏表現が高まったと感じる佳代の仲間のよさに対する意識を読み取ることができる。

佳代 16 わたしのグループはけっこう同じクラスになったことがない子ばかりで、初めは息が合わなくて、バラバラになったりして考えたりしたこともあったけれど、最終的に心をついに、テンポが演奏することができたから、同じクラスになったことがない子でも、考えれば考えるほど心をついにできるから、ちゃんと考えてやればいいんだなってということがわかりました。

－く略－

T 19 じゃあここは仲間だね。1学期の音楽の授業を通して、みんなは、もちろん音楽のこと聴く耳のこととか演奏のこともなんだけど、音楽ではないけれど、仲間のことも学ぶことができたよってことなんだけど、なんでこうやって成長できたのかな？

学びを振り返るかかわり合いの、佳代14「同じクラスになったことがない子でも」と発言する姿は、仲間と折り合いをつけながら目標に向かうことで、より仲が深まったり心が一つになると、仲間のかかわり方についての考え方を深めてきたからこそ表れた姿であるといえる。しかし、表現を向上させるために、結果として佳代は仲間と協力することができたが、折り合いをつけ始めた場面がどこなのかははっきりしていなかった。そこで教師は、協力するきっかけとなった場面を引き出すことで、より成長を実感し、今後の仲間とのかかわりにも生かしていくことができるよう「なんでこうやって成長できたのかな」と問いかけた。

奈津 20 わたしは、さっきいろんな子が仲間と協力とか言ってくれたんだけど、それとかかわって仲間と話し合ったりして、たくさん練習して、どんどんよくする方法を考えたりすることができたから、成長できたと思う。

—く略—

仁美 23 奈津さんに似ていて、ひとりでこういうことをやると、いい音が見つかってもたくさん見つからないと思うから、仲間が自分が考えなかった案を出してくれるから、いっぱい気をつけれるようになった。

—く略—

純二 28 まず、バケツを叩いて、このイスが机を叩いた後にバケツを叩いて、バケツと、プラスチックの箱をつかうといい音が出ていて、その上にフライパンのピンっていう音がいいと思って、これにした。

T 29 めちゃくちゃ考えたんだね。

—く略—

佳代 40 わたしたちのグループだけじゃないと思うけど、いろんなグループで考え合ったり、ちょっと前のスピーチで、誰かがけんかしちゃったとか言っていたけれど、そういうことがあることで、仲間との絆、思いやりが深まるから、それで音楽とかも成長したし、みんなも成長したから、考えとか思いやりとかすることで成長すると思いました。

(7月16日 学びを振り返るかかわり合い 授業記録)

奈津20「仲間と」仁美23「仲間が……出してくれる」のように、仲間と追求してきたことのよさが表出してきた。純二28のようにじっくり考えて粘り強く追求を進めてきたよさに対して教師29「めちゃくちゃ考えたんだね」と価値づけながら、かかわり合いを進めていった。そのなかで、佳代40「仲間との……音楽とかも成長した」という仲間と繰り返し相談し合ってきた過程があったからこそ、絆が深



仲間と絆が深まったよ

まるとともに演奏の成長もあったと、非認知的能力の成長を音楽的な学びの成長に結びつけて考える姿が見られた。しかし、最後まで、仲間と共通の課題を設定したり、考えを受け入れ協同していこうとしたりするきっかけが何だったのかはわからなかった。

自分の考えを仲間に主張していた佳代。しかし、よりよい演奏を目指して仲間とともに追求するなかで、仲間と協力しながら絆を深めていくことが自己や仲間の成長につながるという非認知的能力を高める学びを獲得することができた。

